



会報



DISTRICT 253
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

ス キ ー

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30 - 13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 5775

会 長 上 野 三 郎
幹 事 佐 藤 順 治

全人類を 結びつけるために 奉仕せよ

SERVE TO UNITE MANKIND

W. ジャック・デービス

1977~78 国際ロータリー会長

第 941 号

1978. 1. 17 (火) (雪)

No.28

本日のプログラム

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1. 点 鐘 | |
| 2. ロータリーソング (それこそロータリー) | |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | |
| 4. 会 長 報 告 | |
| 5. 幹 事 報 告 | |
| 6. プレントン君について | 迎 田 稔 君 |
| 7. ご 換 拶 | 交換学生 プレントン君 |
| 6. 会員スピーチ | 内 山 喜 一 君 |
| 7. 新年会について | 安 藤 定 助 君 |
| 8. 出 席 報 告 | |
| 9. 点 鐘 | |

■ビジター・ゲスト紹介

今野 義介 君 (製材) — 温海 R.C
滝 禅源 君 (仏教) — 立川 R.C
佐藤 成生 君 (金物配布) 林 権之助君 (電気器具販売) — 鶴岡西 R.C

■スマイル

斎藤榮作君 声帯治療全快されました。

■会長報告 祝 詞

本日玆に、台中港区扶輪社と我が鶴岡ロータリークラブとの姉妹盟約統盟式典が挙行されるに当り、御丁重な御招待を頂き一行30余名が表敬訪問出来ましたことは誠に有難く且つ光栄に存ずる次第であり、貴社社長陳守枝先生並びに社友皆様心から感謝申し上げます。

顧みれば、両クラブロータリアン同士の全く個人的な交友が発端となってその親交の深まりと拡がりから、あたかもそうなることが約束されていたかのように極めて自然な形で両クラブが姉妹盟約を締結したのは1975年3月8日でありました。「ロータリーは奉仕団体ではなく、奉仕する人々の団体である」といわれますが、我々の盟約の経緯をふり返るときいかにもロータリーらしく味わい深いものが感じられます。盟約以来早くも3年、この間相互に会報や写真、書翰等を交換してクラブの活動状況や会員の消息を通報し合い、又毎年の周年記念には相互に表敬訪問がなされました。殊に昨年5月には、当時の社長紀坤棟先生を団長として24名の社友並びに御夫人の御来訪をいただき、当クラブの会員、家族共々親しく交歓出来ましたことは我々にとって未だに忘れ得ない喜びでありました。又先年当クラブの前例会場が焼失した際には遠路にも拘らず貴社を代表されて当時の幹事、陳宗耀先生の御来訪を受け、御懇篤な御見舞の御言葉を頂戴し、又過分の御見舞金と立派な貴社社旗の御寄贈に預り会員一同深い感銘を受け深甚の感謝を申し上げた次第でした。

今回の統盟を機会に両クラブは互により尊敬し信じ合い、隔意ない意見の交換を行い、相互理解を深め、好意と友情の輪を拡げながら益々固く手を結び合おうではありませんか。このことがひいては両国間の親善と人類の平和に寄与する途であると信じております。今後とも一層の御親交を賜りますよう衷心から御願ひ申し上げます。

終りに、本日かくも盛大な統盟式典を挙行せられ御敬待下さいました貴社並びに社友、御家族の皆様一同を代表し深く感謝申し上げますと共に、貴国並びに貴社の益々の御発展と各位の御健勝と御多幸を祈念して御祝いの言葉といたします。

1978年2月16日

鶴岡ロータリークラブ

会長 上野 三郎

■幹事報告

第4回クラブ協議会 1月24日(火) 16:00~18:00 ホテル 山王プラザ
前半の活動実態と後半の計画、その他
懇親会 登録料 ¥2,500

■ブレントン君について 迎田 稔君

鶴商学園高校一年生編入交換学生ブレントン・ハントン君こと、オーストラリア・ボーダータウン 人口約2,000人位、冬でもあまり寒くならない静かな町に在住、大父さんは電気製品店経営、兄弟は妹2人(トウルディ14才、デイアン8才)、スポーツが大好きで陸上、ホッケー、テニス。日本では柔・剣道、野球をやりたいとのことで趣味は模型飛行機を作って飛ばすことなど性格は極めて明朗活発な学生です。

交換学生ブレントン・ハントンを鶴岡ロータリークラブに派遣することができ、私達は貴クラブへの尊敬の気持ちでいっぱいです。

ブレントン君の日本での一年は皆さんの中での勉強やスポーツの面において最も楽しく、素晴らしい経験になることはまちがいありません。

私達はこの青少年交換が、鶴岡のロータリー、家族の皆さんと、私達ボーダータウン・ロータリークラブの交流を深める結果となることを望んでいます。

1978年の鶴岡クラブの御健斗とこの「青少年交換」が「全人類に奉仕せよ」というロータリーの輪に新しい歯を植えつけることを祈ります。

■会員スピーチ

江戸の本屋さん

内山喜一君

- 昨年11月21日、NHKラジオ第一放送で、“江戸の本屋さん”というタイトルの放送がありました。車の中で聞いたのですが、商店柄興味をそそられまして、帰りまして、何か、参考になるものでもと探しました処、“NHKブックス”にその題名の本がありました。サブタイトルに“近代文化史の側面”として、著者は山形県出身の今田洋三という方で、現在、都立上野高校教諭、放送の内容は勿論この本の抜萃で、珍らしい話が二、三ありましたので、それを、ご紹介したいと時間を頂いた次第です。
- 16世紀末、文禄元年(1596)と慶長2年(1598)の2回に亘り、豊臣秀吉が朝鮮に出兵しました。この役に従軍した当時学問に関心のあった武将が、たまたま、朝鮮貴族の邸内から奪った、木活字印刷の書物、その技術及び諸道具一式と共に、工人(職人)も一緒に日本に連れて来ました。これにより、日本の従来の木版による整版印刷が一変し、寛永年間に至るまでの、約半世紀に亘る、古活字印刷時代をみるのであります。
- 朝鮮役以前にも、書物の印刷はありましたが、出版という行為にまでは至りませんでした。それまでの書物の印刷は、貴族、大名、寺院等の工房で行われておりまして、そうしたところに係りをもった者が、折にふれて持ち出して売買する程度で、書物の商品化には至りませんでした。
- この朝鮮役より約10年余り後、元禄9年(1696)頃になりますと、町方での書物の印刷出版が盛んになりまして、当時、京都の河内屋利兵衛という本屋さんが“増益書籍目録大全”全六冊、只今という出版総目録を発行しました。この目録は、タテ10.7センチ、ヨコ16センチという、横型の小さい本ですが、その頁数は全部で674頁、1頁に3冊～12冊位を掲載してありまして、その点数7,800点、尚これに掲載されていない他の刷り物の類を加えますと1万点余りになります。そしてその流通冊数は、1千万冊、寛永から元禄に至る20年間で、出版物の激増した時期で、またこの、出版物の約90%が京都の書店から発行されたものと云われて居ります。この頃から全国的に、書物の出版は増大されて参ります。
- この目録の中で、特に注目に値する京都の中野小左工門という人の発行になる“大般若経”600巻、ねだん銀で50枚、金になおすと35両余り、当時の米のねだんにして、現在の円にすると、200万円余り、“源氏物語”54冊は円にして16万円余、尚当時のベストセラー西鶴の“好色一代男”、“好色一代女”は円にして4～5千円位とありまして、庶民文学と云われる西鶴ものでも、庶民にはちょっと買って読むというわけにいかぬ、ねだんでした。
- 当時の書店数はと申しますと、京都、大阪、名古屋、江戸、金沢等が主ですが、約400軒位、又その90%が京都在住者で占められていたといひます。京都在住者とは、京都の本屋さんが各地に支店をもっていたということです。この元禄8年に、京都の書店10軒が選ばれました。この10軒のうちの平楽寺書店は、現在でも京都に於いて営業をつづけて居り、名実共に代表的な老舗と申せましょう。
- 少し遡りまして、慶長5年(1600)関ヶ原の一戦に勝利を得て、天下統一の足掛りを掴んだ徳川家康が、同8年に江戸幕府を創立、これにより江戸時代の開幕となります。家康公は史記にいう、“馬上にて天下を得とも、いづくんぞ、馬上をもって天下を治むべけんや”と云う道理を重んじて、常に孔孟の書や、史記、漢書等を学者に講義させていたといひます。そうしたことが、武将の間にも、一般武士の間にも、文治の觀念の拡大されてゆく要因となりまして、寛永から元禄にかけて書物の出版は激増される大きな原因となりました。従って町方に於ける、書物の製作行程も、原稿、筆耕、製版、印刷、製本と作業も分業合

理化され、点数、部数共に量産の増大をみるようになります。ここまで参りますと、従来の貴族、大名、寺院等の工房から完全に町方の手に移りまして、出版文化は飛躍し、江戸時代中期を迎える頃は、江戸の本屋の数は増大し、京都に次ぐ発展となります。

- その頃享保6年(1721)徳川幕府は政治改革の一環として“新規商品停止令”という、きびしい制度を公布します。その中に出版物も贋沢品として、対象にされましたが、時の名奉行大岡越前守の計いで、“出版物は一般商品とは違う性質がある”として別扱いとされました。但し、この停止令の第4条に“今後出版物は総て、出版物の量後に作者名、発行者名を実名をもって入れよ”と規制されまして、これは現在も書物の奥付と称して残っております。大岡越前守の案になるこの奥付は、世界でも類例をみない日本の書物の独特の型式となりました。
- 次に町方、農村にまで、広く学問と書物の普及をもたせられた要因に、天明(1788)と天保(1838)の飢饉をあげることが出来ると思います。と申しますのは、この言語に絶する大飢饉に幕府から種々の布令、回状等がありました。併し乍ら、最大の被害者である農民は読み書きの出来ぬため、あらゆる面で不利益を蒙り、文字を知らぬことの不便さを、身を以って体験したのであります。これを契機として、学問に対する要求が高まりまして、全国的に寺小屋の急増、発展となります。角川書店の“日本史辞典”、“寺小屋”の頃に次の様に解説されてありますので、省略して申し上げますと、“江戸時代の庶民の教育機関であって、幕府の文教政策と共に、町方及び農村の商業化に伴い、読み書きを主とする学問への要求が起った。寺小屋はこの要求に応じて、武士、神官、僧侶、医師等を師匠として庶民の子弟を集め、自然発生的に開設された。通常20~30人の規模から、大は数百人に及び、その教科内容は、読み書きの2科を主とし、商業地域ではソロバンが加わる。当時の寺小屋の数は全国で1万校に及んだ。特に幕末にかけて増加し、都市から農村にまで普及した。明治以降、小学校教育に圧倒されて消滅したが、庶民の教育水準を高めた功績は大きい”とあります。この寺小屋の普及と著しい増加は、読書への普及へと継承されて参ります。
- 併し乍ら書物は前述の通り、何分にも高価であり、一般庶民が簡単に入手は出来ません。そこで、借りて読むという仕組の商売、貸本屋の台頭となるのであります。天保年間、江戸だけでも貸本屋の数は800軒、その読者数は10万軒と称します。これが全国になりますと、実に膨大な軒数が想像されます。当時の貸本屋で最も有名なのが、名古屋の大野屋惣八(略称大惣)であります。明和4年(1767)の創業で、一般庶民は勿論のこと、尾張藩士をもお得意として繁栄したのですが、明治31年、その蔵書が整理されたとき、蔵書19,341冊、置本1,421冊、その他合せて26,768冊あったと伝えられております。
- 明治の文豪の少年時代、名古屋在住の坪内逍遙、水谷不倒、上田万作、幸田落伴、二葉亭四迷、尾崎紅葉、等は、この大惣のお世話になったと、後半述懐しております。
- 終りにお膝元の近代の様子、鶴岡百年小史によりますと、江戸時代旧三日町角、丁字屋さん書店経営、明治に這入りまして間もなく廃業とあります。明治期より創業の書店さんを順次申し上げますと

五日町 地主文蔵 十日町 日向源吉 五日町 小池藤治郎(エビス屋さん)
七軒町 皆川壯吉 荒町 阿部久

■出席報告

本日の出席	会員数	69名	欠	阿部君、阿部(襄)君、早坂(徳)君、飯白君、五十嵐(三)君、石川、玉城君、風間君、石倉君、高橋(耕)君三井(徹)君、中江君、中野(清)君、板垣(広)君、佐藤(伊)君、新穂君、高橋(良)君、山口君、津田君、富樫君、諸橋君
	出席数	48名	席	
	出席率	69.57%	者	

前回の出席	前回出席率	86.96%	メア	笹原君一仙台R・C 石黒君、五十嵐(三)君、西海君、佐藤(友)君 —鶴岡西R・C
	修正出席数	65名	1ツ	
	確定出席率	94.20%	クブ	